

人、言葉、英語 —スティーブ・ジョブズ追悼—

東條 加寿子

10月5日、IT時代の寵児(a visionary)スティーブ・ジョブズがこの世を去った。iPod, iPhone, iPad。ジョブズがこの世に送り出した技術革新の創造物は数限りない。大阪女学院大学は iPod を活用した教育を他教育機関に先駆けて導入したこともあり、思い入れは大きい。報道によれば、ジョブズは次世代のテレビ iTV を構想中だったという。

ジョブズはまた、プレゼンテーション能力にも長けていたといわれる。新製品を発表するのはジョブズである。大スクリーンに写し出される新製品を前に、黒い T シャツとジーンズ姿の孤高の CEO は、会場を埋め尽くした聴衆、そしてその向こうの何百万人に向かってプレゼンテーションを行う。ジーンズの小ポケットから 5 センチにも満たない極小サイズの iPod を取り出す。大画面に映し出されるプロモーションビデオを「気に入った、もう一度見よう」と言って巻き戻す。型にはまらないプレゼンで文字通り直観的に聴衆の心を掴んできた。

2005 年、ジョブズはカリフォルニア州シリコンバレーにある名門スタンフォード大学の卒業式に招かれスピーチを行っている。自身の出自から死生観まで、肩に力を入れず平易な言葉で淡々と語っているのが印象的である。その中でジョブズは仕事に対して次のように語っている。

I'm convinced that the only thing that kept me going was that I loved what I did. You've got to find what you love. . . . And the only way to do great work is to love what you do. . . . If you haven't found it yet, keep looking. Don't settle. . . . As with all matters of the heart, you'll know when you find it.

納得がいく仕事を追及し続けたジョブズの言葉には説得力があり、これから将来を描こうとしている若い人たちにとっては特に勇気づけられる言葉である。かつてヒューレットパッカード社の CEO を務めた女性実業家カーリー・フィオリーナがあるテレビインタビューの中で、“Love what you do. And believe in yourself.” とキャリアを目指す若者にエールを送っていたことを思い出す。“Love what you do.” は裏返せば「仕事をする自分に責任を持つ」ということであろうか。

世界で活躍する人々の息遣いを感じながら日々の生活を送ることは大切である。ジョブズが亡くなった10月5日、追悼サイトにどれだけの人々がアクセスしたことだろう。先に紹介したスタンフォード大学でのスピーチを YouTube で聞いた人々は累積で10万人を超えていた。そして言うまでもなく、世界の息遣いを存分に感じ取るためには英語の力が必要である。英語で人々の考えや行動を理解することができれば、偏りのない感動的な体験につながる。世界を身近なものとしてぐっと引き寄せる、そんな英語の力を教室に持ち込みたいものである。